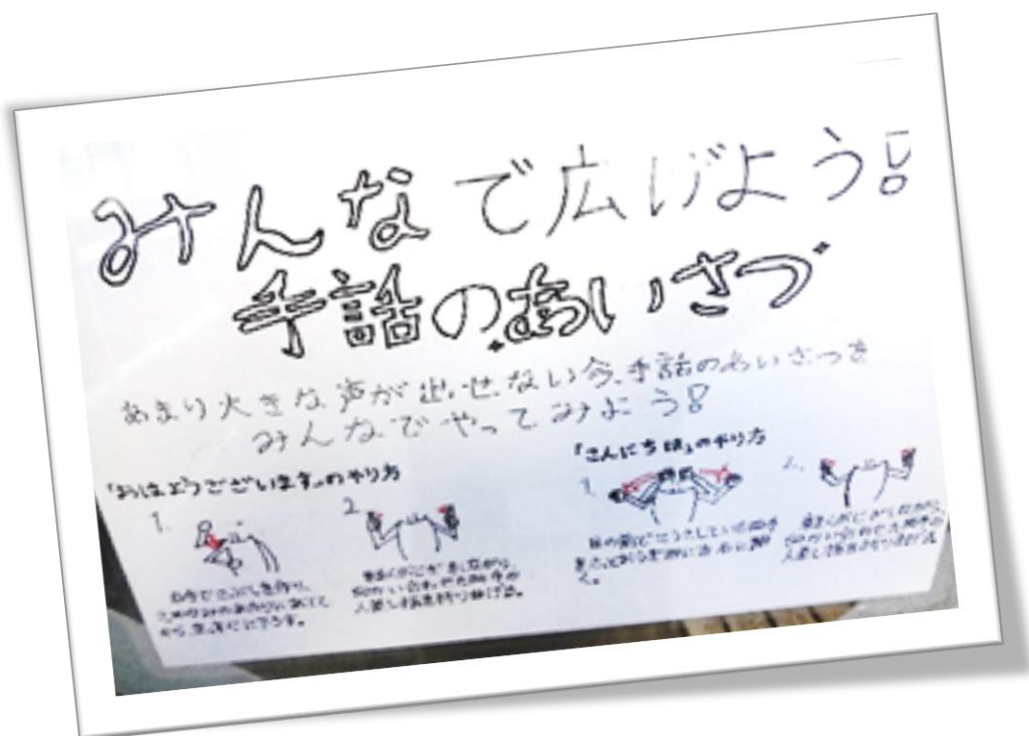


令和2年度 小学校・中学校における

手話に関する 取組事例集



令和3年3月

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

はじめに

手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切に、支えあう社会を実現したい。その理想を掲げて平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

そして、この趣旨に則って、平成 28 年度から 32 年度（令和 2 年度）までの 5 年間を計画期間とする「神奈川県手話推進計画」が策定されました。

これを受け、県教育委員会では、児童・生徒の手話の学びの充実、教員向けの手話研修の充実など、手話を学ぶためのしくみづくりに取り組んでいるところです。

本事例集は、令和 2 年度に県内各学校で取り組まれた実践を、資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しました。新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、各学校で工夫をしながら様々な活動をとおして手話の学習が取り組まれています。これまでに実践された手話の取組事例を参考に、各学校の実態に応じた手話に関する取組の充実を御検討くださるようお願いいたします。

結びになりますが、手話の学習をとおして、児童・生徒がお互いを大切にすることに気づき、支えあう関係を実現できるようになること。また、そうした理想に向けた取組の積み重ねにより、一人ひとりが互いの個性を尊重し、自らの人生や社会をよりよいものにしていくことができるという実感がもてるようになることを願っております。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

県内市町村の実践事例集 目次

◇小学校

<音楽科>

- ・「手話で歌おう」（葉山町立上山口小学校）・・・1

<総合的な学習の時間>

- ・「すみよしハッピープロジェクト」（川崎市立住吉小学校）・・・2
- ・「わたしたちの町大すき」（横須賀市立桜小学校）・・・3
- ・「福祉」（横須賀市立城北小学校）・・・4
- ・「ふれあう心 広がる世界」（海老名市立海老名小学校）・・・5
- ・「手話体験教室」（開成町立開成南小学校）・・・6

<特別活動（学級活動・児童会活動）>

- ・「福祉委員会・手話クラブ」（横浜市立榎が丘小学校）・・・7
- ・「手話で表現してみよう」（秦野市立東小学校）・・・8

<自立活動>

- ・「手話の読み聞かせ」（相模原市立共和小学校）・・・9

◇中学校

<総合的な学習の時間>

- ・「手話講座」（藤沢市立明治中学校）・・・10
- ・「福祉体験・手話」（平塚市立江陽中学校）・・・11
- ・「居住地交流」（箱根町立箱根中学校）・・・12

<特別活動（学級活動・学校行事・生徒会活動）>

- ・「福祉委員会・文化祭での展示発表」（横浜市立平戸中学校）・・・13
- ・「手話合唱の講習」（相模原市立弥栄中学校）・・・14
- ・「手話合唱 2020」（清川村立緑中学校）・・・15



単元（題材）目標

- 手話について理解する。
- 手話や歌詞に合う動きを使って歌うことができることを知る。
- 声に出さなくても、心で歌うことができることを知る。
- 手話を使って歌を表現することができる。

（1）実施時期

令和2年6月～7月

（2）対象（学年等・人数）

全学年 136名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：音楽専科教諭



（4）実施内容

- ①手話について知る
 - ・手話を使って話す人がいること、なぜ手話が必要なのか、手話を使うときに大切なこと等を児童に説明する。
- ②手話ソング「さんぽ」の模範奏をする
 - ・音楽の教科書「音楽のおくりもの」には、手話と身振りで歌う「さんぽ」が全学年に掲載されている。手話や身振りのイラストもついているので、児童も取り組みやすかった。イラストページを拡大したものを参考に、音楽に合わせて練習した。また、手話の単語が、どうしてその動きになったのか、何からその動きをヒントにしたのか、詳しく説明することでさらに理解が深まったようだった。
- ③音楽集会で発表
 - ・2学期（11月）に音楽集会を開いた際、声を出して歌うことはせず、その代わりに手話ソングを全員で披露した。手話や身振りは勿論のこと、心の中で歌詞を歌っていることが伝わってきた。

（5）成果

- 手話や身振りを使って表現することで、手話に対する理解が深まるだけでなく、音楽や楽曲に対する愛着や理解の深まりも見られた。
- 全校で取り組んだことで、きょうだいがいる児童は家庭でも練習するなど工夫して教えあい、楽しみながら学習できていた。

総合的な学習の時間 「すみよしハッピープロジェクト」

川崎市立住吉小学校



単元（題材）目標

- 自分たちの住むまちには、様々な立場の人々が共に暮らしていることに気づき、障害のある人や高齢者との交流や体験活動を通して、障害のある人や高齢者の感じ方や考え方などを理解し、その人の立場に立って考えることができるようにする。
- 様々な立場の人々と共に暮らしていくために、自分たちができることを考え、実践しようとする意欲を高めるようにする。

（1）実施時期

通年（手話に関わる活動は、1月～2月）

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 87名（3クラス）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4学年担任 3名

※手話の指導に関しては、インターネット上の動画を参考にしながら、実行委員を担当している児童を中心に行った。



（4）実施内容

- ① ユニバーサルデザインをきっかけに、身の回りの福祉について調べ学習を行う。
- ② オンラインウェブ会議ツールを活用して、様々な立場の方々から話を聞く。
- ③ パラスポーツの一つであるボッチャやアイマスク等着用して体験する。
- ④ 6年生を送る会で手話を交えた歌を歌い、感謝の気持ちを表現する。（「えがおの芽」）
- ⑤ 学習のまとめをする。

（5）成果

- 様々な体験活動を通して、障害のある人や高齢者の感じ方や考え方を理解することができた。
- 手話を体験することを通して、様々な立場の人々とコミュニケーションをとるためには工夫が必要であることを理解するとともに、お互いに支え合うことの大切さに目を向けることができた。

総合的な学習の時間 「わたしたちの町大すき」

横須賀市立桜小学校



単元（題材）目標

○自分たちが住んでいる町には、さまざまな方が生活していることを理解し、町のやさしさや障がいのある方の気持ちを知り、障がいについての理解を深め、互いに思いやる気持ちを育てる。

（1）実施時期

令和3年1月13日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第3学年 52名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：2名

外部講師：横須賀市聴覚障害者協会1名、
横須賀市派遣手話通訳者連絡会1名



（4）実施内容

①講演会「聴覚障がいについて」（各学級）

- ・自己紹介（耳の不自由な人を当てる）
- ・聴覚障がいの方による家の中と外で困ることについての話
- ・お知らせランプについて ・口話の難しさを実感
(すし、うし、つりなど口の形は同じ)

②手話体験

- ・簡単なあいさつの手話（おはようございます、ありがとう、こんにちは等）
- ・手話における拍手の仕方 ◎学んだ感想・振り返り

（5）成果

○学級通信に授業の感想・振り返りを掲載し、保護者からも感想をいただいた。



単元（題材）目標

＜探究課題＞

- ◎福祉とは何かについて知り、自分たちにとって身近な障がいについて考え、それぞれの障がいについて本や資料・インターネット等で調べ、自分たちにできることを考えよう。
- 聴覚障がいについて、ろう者の方から聞こえ方や困り感・支援方法についての話を聞き（手話を添えて）、障がいの特性について理解する。また、健聴者・ろう者がお互いの立場を理解し、助け合う気持ちを育てる。

（1）実施時期

令和2年12月15日（火）

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 94名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4学年3名

外部講師：横須賀市立ろう学校
事務職員1名



（4）実施内容

○講演「助け合いの心をもって」（各クラス 45分）

※講師：手話を添えながら講演する。

- ・自己紹介。
- ・聴覚障がい者の聞こえ方を体験してみよう。
- ・どんな配慮が必要か考えてみよう。

※ 健聴者は、難聴者に対して、音・声を視覚化することができる。（手話・指文字・筆談等）

※ 事前に、児童から質問したいことをまとめておき、講師に回答してもらった。

（5）成果

○ろう者の方から直接話を聞いたことで、児童は聴覚障がい者の困り感や配慮について、よく考える機会になった。また、「聞こえ方」を体験したことで、健聴者との聞こえ方の違いを実感し、ろう者特有の聞き間違いや聞こえにくさについて感じる事ができた。全体を通して講師が手話を添えて話すことに触れ、手話の必要性についても知る機会になった。

総合的な学習の時間
「ふれあう心 広がる世界」

海老名市立海老名小学校



単元（題材）目標

- 共に生きよう ～ふくし体験を通して～
- 調べたことやふくし教室の様々な体験から、障がいについて理解を深め、自分たちにできることを考える。

(1) 実施時期

令和2年10月6日（火）ふくし教室（手話）

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 160名（4クラス）

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 4名

外部講師：市内ボランティアサークル
「さつき会」



(4) 実施内容

①聴覚障がいについて

聴覚障がいについて、コミュニケーション方法等の講話

②手話体験

簡単なあいさつや手話に関する基本的知識の実践

(5) 成果

- 講話や手話体験を通して、聴覚障がい者の日常、感じ方、考え方を知り、児童の考えを広げることができた。
- 手話についての興味関心を深め、児童が自分でできることはないかと意欲を高めることができた。

総合的な学習の時間 「手話体験教室」

開成町立開成南小学校学校



単元（題材）目標

- 福祉体験等を通して相手の立場を理解し、接することができる。
- 地域には様々な立場の人が生活しており、互いに支え合っていることを知る。

（1）実施時期

令和2年10月29日（木）

（2）対象（学年等・人数）

第4年生全員 126名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

足柄上郡ろうあ福祉協会、
手話通訳者、手話サークルかたつむり



（4）実施内容

- ・聴覚障がい者の生活の様子を知る。（音の代わりに工夫していること）
- ・聴覚障がい者のコミュニケーション方法（身振り・口話・空書・筆談・手話）
- ・手話による簡単な会話（あいさつ・自分の名前・感情表現など）

（5）成果

- 手話に興味を持ち、手話で自分の名前や簡単なあいさつ、気持ちを表現することができた。
 - 聴覚障がい者の生活を知ることにより、音の代わりに伝える方法の様々な工夫に気付くことができた。
- <児童感想 一部抜粋>
- 振動する目覚まし時計や扇風機のタイマー等、聴覚障がい者の方の生活には様々な工夫があると分かった。
 - 手話だけではなく、表情や口話をつけると分かりやすいと思った。
 - 手話を知らなくても会話はできると思っていたが、一つひとつに意味があることを知った。手話に興味が出て、もっと勉強したいと思った。

特別活動 「福祉委員会・手話クラブ」

横浜市立榎が丘小学校



単元（題材）目標

- 手話に親しむことを通して、聴覚障害者への理解を深め、様々な立場の人への理解にもつなげる。
- いろいろなコミュニケーションの方法を日常に取り入れられるようにする。

(1) 実施時期

通年

(2) 対象（学年等・人数）

中心となる委員会は5、6学年 クラブは4～6学年
対象は全校児童 630名（委員会から全校児童へ発信）

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

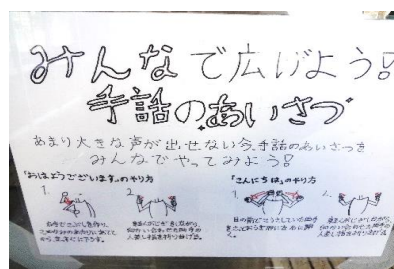
委員会、クラブ担当教諭

(4) 実施内容

- 児童の福祉委員会の活動として至近距離で挨拶がしにくい現状、コミュニケーションツールとして、手話を取り入れることを考え、全校で取り組みたいと呼びかけた。ポスターやテレビ朝会で紹介した。
- 手話クラブが今年初めて発足し、手話に興味を持った児童たちが集まり、生活の中に取り入れたいと、自分たちで調べるなどして活動した。

(5) 成果

- 福祉委員会の呼びかけに多くの児童が反応し、「おはよう」の挨拶を手話で交わしたり、いろいろな授業の中で「手話ではどう表現するのだろうか」と話題になったりして、興味・関心が広がっている。
- クラブ活動では、覚えた手話を使ってクイズを出し合ったり、歌を歌ったり、50音を覚えて、自己紹介をしあったりしていた。もっとたくさん覚えたいと、意欲を高めていた。



特別活動

「手話で表現してみよう」

秦野市立東小学校



単元（題材）目標

- 手話を使って表現したり伝え合ったりすることを通して、音を聞き取ることに難しさを抱える人々の考えや気持ちについて理解を深める。

(1) 実施時期

令和3年2月9日（火）

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年3組：30名・小学校教員：1名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4学年担任1名

(4) 実施内容

①手話について知る。

- ・神奈川県教育委員会作成資料『手話啓発リーフレット』を活用し、手話についての基本的な知識や表現について理解する。

②平塚ろう学校の活動について知る。

- ・平塚ろう学校の学校紹介動画を視聴することを通して、同世代の子どもたちの姿から、手話を用いたコミュニケーションや聴覚障がいをもつ人たちの生活について、理解を深める。

③手話を体験する。

- ・手話への興味を深めるために、子どもたちが知っている音楽を演奏とともに手話で表現している映像資料を視聴する。
- ・『手話啓発リーフレット』から、「あいさつ」「自己紹介」の表現の仕方について知る。
- ・教室内で手話を用いた自己紹介をする。

(5) 成果

- ・手話の成り立ちに関する基本的な知識や、手話を用いて生活する人々について知ることを通して、音を聞き取ることに難しさを抱えている人々への理解を深めることができた。
- ・手話への興味や理解を深め、簡単な挨拶や自己紹介ができるように積極的に練習することができた。また、手話を通して自分の表現したことが伝わる楽しさや喜びを感じることができた。
- ・平塚ろう学校の生徒たちの手慣れた手話の様子から、「手の動きがすごい速さでわからないね。」「でも、声が聞こえない人からしたら、口の動きだけで話を理解しようとするのは同じように大変なのかもしれないね。」など、聴覚障がいの人々の立場になってコミュニケーションの在り方を考えることができた。（活動中の児童の反応）



自立活動「手話の読み聞かせ」

相模原市立共和小学校



単元（題材）目標

○手話の世界を楽しみ、相手の立場を思いやり、温かい心をもつようにする。

（１）実施時期

令和２年１１月９日（月）

（２）対象（学年等・人数）

特別支援学級児童 21 名（１年 3 名、２年 3 名、
３年 6 名、４年 5 名、５年 2 名、６年 2 名）、
介助員 2 名、手話ボランティア 3 名、小学校
教員 6 名



（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：難聴学級担任 1 名、外部講師：他校図書整理員 1 名

（４）実施内容

事前に、「はらぺこあおむし」のビデオを見せたり、黒板に手話表現を掲示したりして、雰囲気づくりを心掛けた。

- ① キーワード「はらぺこ」「あお」「むし」の手話を教えてもらって、音声なしで手話だけの「はらぺこあおむし」の語りを見る。
- ② 各曜日のグループを作って、担当する曜日の手話単語を覚える。（曜日、数、色、食べ物の名前など）
- ③ 音声付きの手話の読み聞かせを見る。曜日の場面では、講師の先生と一緒に手話をする。（難しそうな手話のところは、ボランティアの力を借りてみんなで取り組んだ）
- ④ 感想を発表する。
- ⑤ お礼に、共和小学校の校歌を手話付きで歌う。

（５）成果

○特別支援学級の全児童が手話に集中して最後まで静かに聞くことができた。いろいろな手話表現に興味をもつことができた。

<児童の感想>

- ・今日の手話の読み聞かせで、音声もないのにどこを読んでいるかが分かった。
- ・りんごやみかんやなしや月～金曜日の手話も知ることができてよかった。

（６）その他

○人権週間に実施して、その模様を校内放送でも流して全校に紹介し、手話への関心を啓発することができた。保護者会でも映像を見せ、理解してもらった。

総合的な学習の時間「手話講座」

藤沢市立明治中学校



単元（題材）目標

- 福祉の視点から身の周りに暮らす様々な人々への関心を高めることで、人としての視野を広げる。
- 一つの言語としての「手話」を学び、コミュニケーションの可能性を広げる。

(1) 実施時期

令和2年11月13日（金）（事前指導）・11月20日（金）（手話講座）

(2) 対象（学年等・人数）

第1学年 202名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1学年職員（事前指導）

外部講師：港南区聴覚障害者協会の方6名

（聴覚障がい者の方3名及び手話通訳の方3名）



(4) 実施内容

- 事前指導（指導者：1学年職員）

マウスシールドの作成を行った。（前半）

挨拶や指文字及び簡単な手話を覚えた。（後半）

- 手話講座

手話体験：各教室に聴覚障がい者の方1名と手話通訳の方1名のペアで授業を行った。

- ・耳が聞こえないということについて
- ・耳が聞こえない人とのコミュニケーションについて
- ・手話のなりたちや複数の表現のしかたがあることについて
- ・手話によりいろいろな言葉を表現することについて
- ・質問等



(5) 成果

- 生徒各自の耳が聞こえないということについての理解が深まるとともに、授業の最後のお礼の言葉を手話で述べる生徒がいたこと、また、放課後等に手話で会話する複数の生徒が見られたことは、コミュニケーションとしての手話の有用性が生徒各自に認識された結果である。予めマウスシールドの作成を行ったことで講座の前から手話への興味関心が高まった。

(6) その他

- 後日校内に手話の挨拶を掲示した。来年度以降も機会を設けて手話の講座を継続していきたい。

総合的な学習の時間 「福祉体験 手話」

平塚市立江陽中学校



単元（題材）目標

○福祉体験として、車いす体験・高齢者疑似体験・誘導法体験・手話体験・点字体験・盲導犬体験の中から1つ選択し、体験を通して、多くの生徒が、福祉に対しての見識、思いやりやバリアフリー社会の実現などに対する関心を高める。

（1）実施時期

令和2年11月11日（金）

（2）対象（学年等・人数）

第2学年 205名（手話18名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：2学年所属 1名

外部講師：4名



（4）実施内容

- ①事前学習：講演会 『ボランティアの心構えについて』
- ②映像資料を利用し、プリントを使って、福祉の基礎を身につけられるよう取組んだ。
- ③福祉体験（手話体験）：講師を招いて、手話実践を行った。
 - ・講師4名（うち1人聴覚障がいのある方）
 - ・聴覚障がいのある方のお話（生活の中での工夫や、困難なこと等）
 - ・手話体験（手話のポイント、あいさつ、感情を表す言葉、自己紹介の仕方等）
講師が名簿を見て、生徒の名前を手話で表し、誰の名前かを当て、該当生徒から順に、自分の名前も含めて自己紹介を行った。
 - ・質疑応答（手話にも英語や方言があるのか等）
- ④お礼状作り・新聞作成（個人）

（5）成果

○手話は、手だけではなく表情や気持ちを込めて伝えることが大切だということ、体験を通して感じる事ができた。皆が気持ちよく過ごすために、思いやりやバリアフリー社会の実現が必要であることを知り、福祉に対する関心を高めることができた。

（6）その他

○今後も福祉体験を継続して行い、生徒が実際に福祉に触れる機会を多く作っていきたい。



単元（題材）目標

- 地域に住む特別支援学校の生徒との交流を通し、同じ社会に生きる人として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく態度を養う。

（1）実施時期

令和2年12月8日（火）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年・48名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

小田原養護学校教諭：1名

本校教諭6名（第1学年所属4名・特別支援学級所属2名）



（4）実施内容

- ①手話によるあいさつ ※第1学年全体と交流
 - ・教諭や生徒が「おはよう」や「よろしくお願いします」、「ありがとう」などの手話を覚え、交流の生徒を出迎えた。
- ②自己紹介 ※第1学年全体と交流
 - ・本校生徒と交流の生徒が自己紹介をし、その際、一部に手話を用いた。
- ③学校探検 ※特別支援学級と交流
 - ・支援級生徒が案内役となり、車いすで校内を探検した。交流の生徒は、デジタルカメラを持ち、気になる所をカメラで撮影して記録に残した。
- ④体ほぐし ※特別支援学級と交流
 - ・体育館で「ボッチャ」と「パラバレーン」を使用した体ほぐしを行った。

（5）成果

- 中学校入学後、初めての交流であったが、本校の生徒たちが温かく迎え入れようとする雰囲気があり、気持ちのよい互恵の交流ができた。
- 自己紹介が終わった後には交流の生徒と笑顔でハイタッチをしたり、手話を使って簡単な会話をしたり、身振り手振りで気持ちを伝えたりするなど、言葉を介してはいないが相手のことを考えた行動をすることができた。

（6）その他

- 継続した交流を予定しているため、今後は交流生徒の実態に合わせた指文字や手話のバリエーションを増やしていくことを検討している。

生徒会活動 「福祉委員会 文化祭での展示発表」

横浜市立平戸中学校



単元（題材）目標

○生徒会活動を通して様々な障がいについて理解を深め、学校教育目標にある「思いやりの心」や「お互いを尊重する心」を育てる。

(1) 実施時期

令和2年 10月下旬

(2) 対象（学年等・人数）

第1～3学年全生徒・教職員（650人）
内、展示作品制作に関わった生徒（16名）

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 3名（福祉委員会指導教諭）

(4) 実施内容

①福祉委員会で話し合い、「手話の歴史」「手話歌」「手話を使う人の数」「全日本ろうあ連盟の活動」「日常で使える手話」「日本と世界の手話」を小テーマとし、「手話」「点字」「ユニセフ」

「パラリンピック」のグループに分かれて掲示物を作成することにした。

②例年の学習発表会では、教室を使用して福祉体験をできるような発表を行っていたが、今年は感染症拡大防止のために廊下での展示発表を行うこととした。

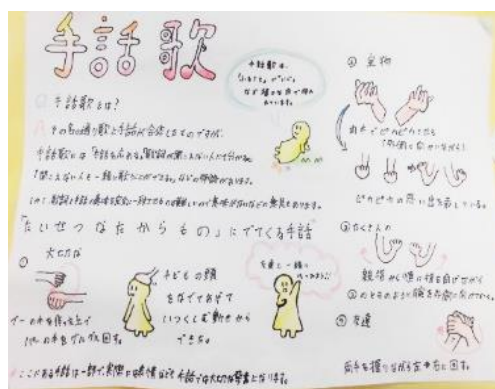
③見学する生徒が福祉に興味をもったり、障がいへの理解を深めたりすることにつながるため、自分たちの生活に身近な内容を取り上げることにした。

(5) 成果

○今年度は、文化祭にて校内の展示発表のみとなり、地域の方の参加や資料提供を受けることができず、充実したものにならなかった。しかしすべての生徒が展示発表を見るよう工夫したことで、手話についてはもちろん、障がいへの理解が深まることにつながった。

(6) その他

○次年度に向けては、外部講師をお招きして体験的な活動を全学年で実施する予定である。



特別活動 「手話合唱の講習」

相模原市立弥栄中学校



単元（題材）目標

○文化祭合唱発表会での学級曲「空は今」の一部に手話を取り入れることで手話について学び合い、聴覚障害者にも理解してもらえる合唱を表現する。

（1）実施時期

令和2年9月23日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第2学年4組：37名、

特別支援学級交流生徒：1名、担任：1名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：担任1名

手話講師：相模原市聴覚障害者協会の方1名、相模原市手話通訳者の会の方1名、
中央ボランティアセンター職員1名（社会福祉協議会 職員）名



（4）実施内容

- ① 講習日は、パートの代表者が手話講師から歌詞の表現方法の講習を受ける。
- ② 翌日以降、講習を受けた生徒が中心となってクラス全体に伝達する。
- ③ 発表会当日まで、クラス・各パートによる、手話を含めた合唱練習を重ねる。

（5）成果

- ①練習を重ねるうちに、パート（三部合唱）ごとの手話でのハーモニー表現の難しさや歌い出すタイミングが異なるために「手話がバラバラに見えてしまうのではないか。」という意見が出され、生徒間で意見を出し合い、合唱の冒頭部を無伴奏にし、手話と斉唱だけで歌うというオリジナルのアレンジを加えた。結果として、素晴らしい手話合唱を披露することができた。
- ②コロナ禍での練習・発表のため、声量だけでなく、歌声に合わせた一致した手話を取り入れ、歌詞を大切にし、手話の持つコミュニケーション力をクラス全体で考えることができた。
- ③短時間での練習であったが、「手話合唱」への興味を持ち、わかりやすい手話で表現しようとする生徒の気持ちを育てることができた。

（6）その他

○相模原市民会館を貸し切ったの本校のみの文化祭舞台部門（合唱祭）で、コロナ感染予防の為に、保護者・一般の来場視聴が叶わなかったが、全校生徒、職員に発信することができた。

特別活動「手話合唱 2020」

清川村立緑中学校



単元（題材）目標

- 全校生徒で協力し、意欲的・積極的な活動実践を通して、自己表現力を高める。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする資質や能力を育成することを目指す。（総合的な学習の時間との関連）
- 互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することの重要性を理解し、公正・公平な社会の実現に努める。（道徳教育との関連）

（1）実施時期

令和2年 6月～10月

（2）対象（学年等・人数）

全校生徒 69名

（1学年26名、2学年25名、3学年18名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：全教職員 18名

（4）実施内容

「全校生徒による手話合唱」

- 「神奈川県手話言語条例」の制定に伴い、手話に対する理解を深め、様々な立場の方々と共に共生できる地域社会を作る取組の3年目となる。
- 昨年、一昨年と同様に「文化発表会」（学校行事）、「厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭」（校外行事）で全校生徒による手話合唱を発表できるよう計画を立案した。しかし、コロナ禍における制限等もあり、内容を見直して手話合唱に取り組みさせた。今年度は、以下のような変更点の下、全校生徒で取り組んだ。



① 変更点その1 校内における手話研修、手話練習

コロナ禍で外部講師を招くことができなかったので、手話を理解している教職員が中心となり、生徒への指導を全職員で行えるように研修を進めた。今年度の合唱曲は「糸（作詞・作曲 中島みゆき）」。

歌詞に沿った手話の図を担当職員が作り、廊下に掲示したり、生徒一人ひとりのタブレットに動画配信したりして休み時間等も自主的に練習ができるよう配慮した。また、これまで手話合唱に取り組んできた2、3年生がリーダーとなり、パートごとに手話練習を重ねてくれたことも成果の一つといえる。

② 変更点その2 発表形式の変更

コロナ禍の影響も受け、発表スタイルに制限がかかったが、今の状況でできる最大限の努力を皆で生み出し合唱を披露した。校内行事では、立ち位置の工夫とマウスシールド着用により、観客無しの体育館で手話合唱を発表。録画した映像は期間を決めて各生徒のタブレットに配信し、各家庭で演奏を見られるようにした。「厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭」では、ステージに立つ人数の制限があったため、3年生だけを本番のステージに上げ、1、2年生の手話の様子を事前にビデオに収録し、映像とのコラボレーション発表という形式で手話合唱を披露した。目標を明確にし、生徒たちのやる気と根気を引き出す取組につなげた。

（5）成果

- 手話合唱は達成感が大きく、本校の魅力的な取組の一つとして定着してきた。音楽科を中心に、全職員が生徒とともに手話に関わっていくことも大きな成果となっている。次年度も継続して、生徒たちによる手話合唱に取り組んでいきたいと考えている。



神奈川県

教育委員会

教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 (045)210-1111